

平成 19 年 3 月 22 日

症例報告 ママさんバレー選手の左膝関節炎

折原瑛哲

本症例は、初診時に熱感を認めた。熱感陽性時の灸治療は禁忌。または行わない方が良い。今までそう信じて治療にあたってきたが、今回は、あえてその禁を破り灸治を第 1 技として行った。

また、鍼治療も以前に失敗したことから、長年封印してきた手技を試みた。

症 例：53 才 女性 パート

初 診：平成 19 年 2 月 16 日

主 訴：左膝の痛み

現病歴：2 月 11 日、バレーボールの試合で横に跳んだ時、左の膝に痛みを感じたが、試合終了まで我慢して続けた。

2 月 12 日、朝起きると左膝の痛みは強く大きく腫れていた。医者に行きたかったが、仕事(荷物の積みおろし)が忙しくて行けなかった。

2 月 14 日、近所の整形外科に行き X 線検査を受けた。骨には異常は無いが水が溜まっているので、色を確かめたいと言われ水を抜かれた。水の色は薄黄色でその後、注射を 1 本打ってもらった。炎症止めを飲んで、湿布をして安静にするようにと言われ帰された。

歩いていると痛みと共に膝がガクンと折れるような違和感があり怖い感じがするが、実際には膝折れ、嵌頓症状は認められない。他関節痛、朝のこわばりはない。自発痛、夜間痛はない。

スポーツは 20 年以上前からママさんバレーを始め、現在も続けている。2 月 28 日に試合があるので出たいと言う。アルコールはビールを少々。タバコは吸わない。

既往歴：腰椎すべり症

家族歴：夫が 2 年前に顎部の癌で死去

診察所見：身長 164cm、体重 57kg、内出血斑陰性。発赤陰性。熱感陽性。

腫脹は陽性。2 横指半の内反変形が認められるが、幼少の頃からのものである。筋萎縮は認められない。膝蓋骨圧迫テストは陰性であるが、

患側はギシギシいう。内反テスト陰性。外反テスト患側陽性で、膝関節内側に痛みの誘発が認められるが、動揺性はない。

ステインマン・テスト陰性。屈曲痛は陽性で 130°にて患側膝蓋・大腿前部に痛みとつっぱり感を、膝裏に痛みの誘発が認められた。

圧痛は内隙・内上顆・委陽・浮郛に認められた。靭帯上に陥凹は認められない。(表 1)(図 1)

診 断：本症例は発症状況および診察所見から、スポーツ外傷による左膝関節炎と診断した。内側側副靭帯の損傷を推測したが、靭帯上に陥凹が認められないことに加え、腫脹が血腫によるものではないことが確認されているので、軽度損傷と考え、鍼灸治療を試みることにした。

対 応：試合で横飛びした時に、膝の内側の靭帯を傷つけてしまったようです。膝が腫れて痛みも強いようだけど、血腫がなかったから大きな断裂はないようです。28 日に試合に出たいとのことですが、少々、お年齢ですし、靭帯は筋肉よりも回復が遅いのです。ギリギリだと思えますよ。

治療・経過：鍼灸治療は左膝の腫脹、熱感、疼痛の緩解を目的として行った。治療体位は仰臥位で、膝の下に枕を挿入し軽度屈曲して行った。

経穴は、左陰陵泉・内膝眼・下血海・下梁丘・外膝眼・内庭(図 2)の順に半米粒大でそれぞれ 5 壮施灸。これに加えて、黒田製カーボン燈 3002 - 3001 による光線照射を 20 分間行った。後に軽いマッサージを施して治療を終了した。

生活指導：今後 28 日までバレーボールの練習は禁止です。仕事も膝にはきついようだし、とにかく出来るだけ左膝をかばって生活して下さい。

第 2 回(2 月 19 日・3 日目)腫脹は半減した。熱感は陽性。外反テストは陽性。屈曲痛は陽性、140°で患側膝蓋前部・大腿前部に痛みとつっぱり感を、膝裏に疼痛の誘発が認められた。

第 3 回(2 月 20 日・4 日目)腫脹は膝蓋骨上部のしわの深さにやや左右差が認められる程度で軽度陽性。熱感は陽性。外反テストは陽性。屈曲痛は陽性、140°で前回同様の疼痛が誘発された。

疼痛の軽減を目的とし鍼治療を行う。患側蠡溝・曲泉・飛陽・委陽(図 3)の順に陰圧鍼(注 1)を施した。この鍼方は強い残鍼感を求めて行うものだが、刺激量が適切ならばその残鍼感はいけて不快なものではない。

今回、特に飛陽・委陽の鍼感の特筆すべきものがあり、抜鍼後すぐにスーとした清涼感を伴った鍼感が大腿後側から臀部、後に下腿後側へ放

散する。やがて背部から後頭部へ達し、夜、布団に入ってもなお続いていたという。

対して蠡溝・曲泉での鍼感は、施術部に温かい感じが起こり 10 分ほど後に大腿内側に清涼感が出現したが、強いものではなかったという。

第 4 回(2月 23 日・7 日目)腫脹・熱感共に軽度陽性。外反テスト陽性。

屈曲痛は陽性、170°で膝蓋・大腿前部につっぱり感と疼痛が誘発された。大腿後側の疼痛は緩解した。飛陽・委陽への鍼は中止した。

第 5 回(2月 27 日・11 日目)腫脹・熱感共に陰性。外反テスト陽性。

屈曲痛は陽性、170°で膝蓋・大腿前部につっぱり感と疼痛が誘発されるが、だいぶ緩和されたという。灸を中止し、内庭・陰陵泉に 10 分間の置鍼を施した。後、軽いマッサージを行い治療を終了した。

生活指導：明日の試合になんとか間に合いましたね。とは言え、外反テストは陽性だし屈曲痛も残ります。明日は、テーピングとサポーターを着用して試合に臨んで下さい。また、試合中にちょっとでも違和感を感じたら競技を中止して下さい。

第 6 回(2月 28 日・12 日目)試合後の様子を診るために来院してもらった。

鍼灸治療は行わない。腫脹・熱感軽度陽性。

生活指導：冷湿布を貼付し早めに休んで下さい。入浴は控えてシャワー程度にして下さい。

第 7 回(3月 3 日・15 日目)昨日から風邪をひき 38°C 程の熱が出た。現在も 37.5°C の熱がある。厚着して布団に入っても汗が出ないと言う。腫脹軽度陽性。熱感陽性。左右の大都・解谿、左の行間・天瀹に刺鍼。気を得て後瀉す。

帰宅したら、白湯を一杯飲んで温かくして休むように指示した。

その夜、汗をかき翌日解熱したと連絡があった。

本症例は、現在治療継続中である。

考 察：本症例はバレーボールの試合中、横に跳んだときに負傷した左膝内側側副靭帯の軽度損傷を主な誘因として発症した、膝関節炎と診断した。以下、その理由を述べる。1). 2). 5).

- 1, バレーボールの試合で横に跳んだ時に疼痛が出現した。
- 2, 熱感および腫脹が認められた。
- 3, 外反テスト陽性で左膝内側に疼痛を認めた。
- 4, 屈曲痛があり、内側側副靭帯上に圧痛を認める。
- 5, 腫脹が現れたのは、受傷時の翌日である。

なお現病歴および診察所見から以下の類症疾患を除外した。1). 3). 4). 5).

1. 関節リウマチ

家族歴にリウマチの記載がなく、朝のこわばりもない。炎症が他関節に及ばない。

2. 内側側副靭帯強度損傷(断裂)

受傷時に何か切れたような感じは無く、靭帯上に陥凹を認めない。

また、靭帯の強度損傷の場合、受傷後 1 時間以内に腫脹が現れる。本症例とは時間的に合致しない。

3. 半月版損傷

膝折れ、嵌頓症状が認められず、マックマレーテスト陰性。

4. 変形性膝関節症

患者の年齢、性差、運動時痛、腫脹、内反変形、裂隙の圧痛等、本症例は、幼少の頃より O 脚であるという偶然も手伝って、変形性膝関節症の特徴を多く有する。患者は肥満体型でなく、大腿筋力の衰えも顕著ではないと推測するが、これさえも 1 次性の変形性膝関節症を否定するごわずかな根拠でしかない。

変形性膝関節症には、発症数は少ないが 2 次性のももありその特徴は、膝関節の外傷や、大腿骨内側顆の骨壊死など明らかな原因に続発して発症することである。

本症例には、今後の経過観察が必要であり、一定期間症状の再燃を認めないという事実をもって始めて、変形性膝関節症の関与を否定できると考える。

続いて本症例における灸治療のタイミングについて考察する。

本症例において灸治療は、腫脹の軽減を目的として行ったものである。腫脹の軽減と共に、熱感も軽減するのではないかと考えたが、案に相違して熱感の軽減は得られなかった。治療期間も長びいてしまったと思う。鍼治療で熱感の軽減を得た後に灸を施した方がよい、と実感した。

注 1： 陰圧鍼とは、折原流圧鍼術の手技のひとつで、刺鍼した鍼を体の中心方向に対して内方に捻捻し、筋・皮を絡ませた後に引き上げ、30 ~ 60 秒保持する。抜鍼の際は逆に捻捻し、雀啄し、筋・皮を解いて、鍼の抵抗感を無くした後、緩やかに引き抜く。

強い残鍼感を得るための鍼方であり、臥床させて行う。

参考文献

- 1) 出端昭男：「診察方と治療方 3 膝関節痛」, P27. P35-39. 医道の日本社, 1986.
- 2) 代田文彦・出端昭男・松本文明：「鍼灸不適応疾患の鑑別と対策」, P317. 医道の日本社, 1994.
- 3) 室田景久 他：「図説整形外科診断治療講座 7 膝関節障害」, P208-211, メジカルビュー社, 1989.
- 4) 吉野慎一：「関節リウマチとその近縁疾患」, P12-20. P41. 医歯薬出版, 1988.
- 5) 勝見泰和・高井信朗：「疾患別治療大百科シリーズ 2 膝関節痛」, P49-55. 医道の日本社, 2000.

表 1, 初診時の診察所見

膝関節痛				19年2月16日	
1 身長	164 cm	左	内反試験	内 - 外 -	18 圧痛 内隙、内上顆 季陽、浮郤
2 体重	57 kg		外反試験	内 + 外 -	
3 発赤	左 - 右 -	右	内反試験	内 外	
4 腫脹	左 + 右 -		外反試験	内 外	
5 熱感	左 + 右 -	左	ST内旋	内 - 外 -	
6 内反変形	左 > 右		ST外旋	内 - 外 -	
7 外反変形	左 右	右	ST内旋	内 外	
8 筋萎縮	左 - 右 -		ST外旋	内 外	
10 膝蓋跳動	左 右	15	屈曲痛	左 + 右	
11 膝蓋圧迫	左 - 右	17	四頭筋力	左 右	
9 大腿周径	14 マックマレー	16	アプレー		

(医道の日本社)

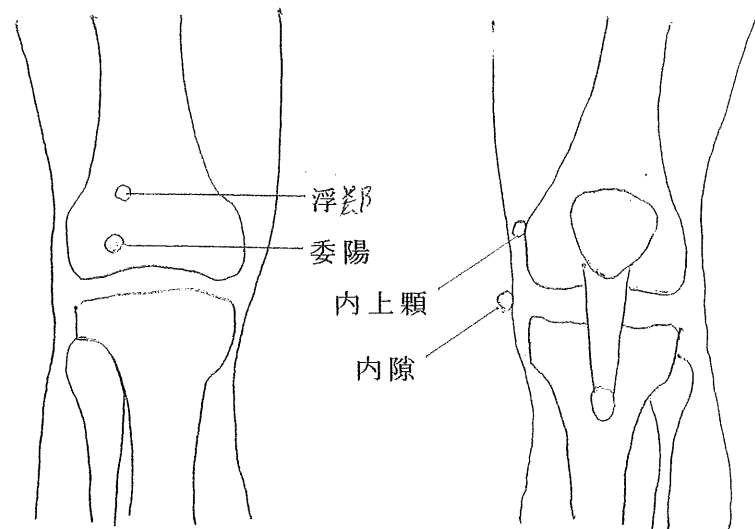


図 1, 圧痛点

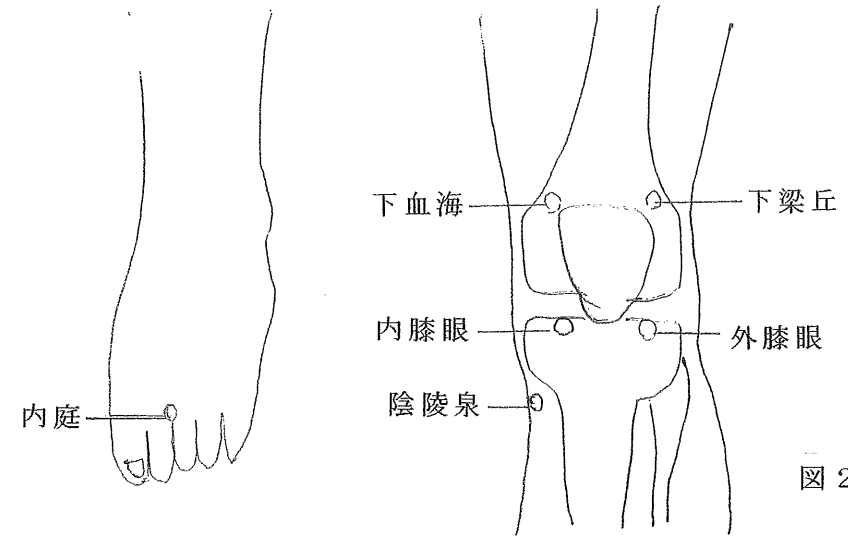


図 2, 灸治療点

図 3, 鍼治療点

